

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	脈
Author(s)	金子, 正信
Citation	龍南, 246 : 45 - 46
Issue date	1940-03-01
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8394
Right	

何をか告ぐる　この朝アサ

ああ、われ御民　進まばや

脈

文三乙　金子正信

たそがれの下宿の部屋に

二つの便りがおかれてあつた

私は二つの返事を思ふ

老いの父母に送る假名の便りを思ふ……………

電氣スタンドの柔かい光が

うす寒い部屋に流れる

机にはよみさしのみまゝ哲學の本が開かれてゐる

——アプリオリの世界——

萌え出でた緑葉の

かすかなそしてすこやかないぶきのやうに

昨夜よみつゝ考へた思想がさゝやく

々人の子の―若き世代の人の子の廣さ深さも人間味もこの認識の世界から生れるのではないだらうか
調和！ 何と豊かな調和の世界だらう！

ちつとこみ上げてくる……………

生命のほゝるゑみ！

私は鏡をとり出し

そして々自分々をうつしてみた……………

あゝ 私は生きてゐる！

蟻

理二乙 倉 光 宏

いたましくも ひたすらな

そのはゞたき

低い音調は宿命の死を呪咀する